

評価事例 13

単 元 名	第6学年 Unit5 We all live on the Earth.
単 元 の 目 標	自分が調べたことをよく知ってもらったり、相手が調べたことをよく知ったりするために、食物連鎖について、身近で簡単な事柄を伝え合うことができる。 「話すこと [やり取り] イ」
言 語 活 動	理科の授業で学んだことをALTに伝えるという場面を設定する。食物連鎖について互いが学習したことを知るために、生き物について、その生息地や食べている物などを伝え合う。3人のグループを作り、食物連鎖のつながりが分かるように担当する生き物を分担する。

評価の進め方

児童は3人のグループを作り、グループ同士でやり取りを行う。発表する場所を数カ所設け、学級の半分のグループは発表する場所を固定し、その他のグループは発表する場所を1つずつ移動する。教員とALTは、やり取りの様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 生き物、生息地などを表す語句や Where do ~ live? ~ live in ~. What do ~ eat? ~ eat ~. の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 食物連鎖について、上記の語句や表現等を用いて、伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分が調べたことをよく知ってもらったり、相手が調べたことをよく知ったりするために、食物連鎖について、身近で簡単な事柄を伝え合っている。</p>	<p>自分が調べたことをよく知ってもらったり、相手が調べたことをよく知ったりするために、食物連鎖について、身近で簡単な事柄を伝え合おうとしている。</p>



思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を使い、更に詳しく尋ねたり答えたりしている。
B：おおむね満足できる状況	生き物について、その生息地や食べている物を尋ねたり答えたりしている。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>S1: This is an owl. S2: Where do owls live? S1: Owls live in the forest. S2: What do owls eat? S1: Owls eat snakes. Owls catch snakes at night.① S2: Owls are strong?② S1: Yes! Owls are strong but cute.</p>	<p>S1: This is a snake. S2: Where do snakes live? S1: Snakes live in the forest. S2: What do snakes eat? S1: Snakes eat frogs.</p>	<p>S1: This is a frog. S2: Where do frogs live? S1: ... T: 生息地はどこですか? S1: Frogs ...? S2: ... T: 食べているものを尋ねてみましょう。 S2: What...? T: What do frogs eat? S1: Frogs eat bugs.</p>
<p>理由 S2は、生き物について、その生息地や食べている物を尋ねているだけでなく、②Owls are strong?と生き物の様子を更に詳しく尋ねている。 S1は、生き物について、その生息地や食べている物を答えているだけでなく、①Owls catch snakes at night.と具体的な情報を付け加え、更に詳しく伝えている。</p>	<p>理由 S2は、生き物について、その生息地や食べている物を尋ねている。 S1は、生き物について、その生息地や食べている物を答えている。</p>	<p>理由 S2は、生き物について、その生息地は尋ねているが、食べている物を尋ねていない。そのため、生き物についてよく知ることができない。 S1は、生き物について、食べている物を答えているが、生息地を答えていない。そのため、生き物について十分に伝わらない。</p>

「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照

指導のポイント

・理科の教科書やタブレット端末、学校図書館等を活用し、食物連鎖について、調べ学習をする時間を設ける。